

西海市総合教育会議 議事録

招集年月日	平成30年7月23日		
招集の場所	大瀬戸コミュニティセンター 2階第1会議室		
開会及び閉会	平成30年7月23日(月) 開会 午後1時10分 閉会 午後2時35分		
会議構成員の 氏名及び出欠 の状況	市長	杉澤 泰彦	出席
	教育長	中小路 和久	出席
	教育委員	北島 淳朗	出席
	教育委員	川南 まつみ	出席
	教育委員	寺本 温	出席
	教育委員	村山 みほ	出席
	職務のため出席した者 の職氏名	教育次長	中島 義則
		教育総務課長	田口 春樹
		学校教育課長	楠本 正信
		社会教育課長	山本 誠治
		総務部長	山添 秀士
		総務課長	下田 昭博
		総務課行政班長	濱川 治彦

会議に付された事件及び内容

第2次西海市教育大綱の確認について

基本政策4「安心して学べる教育環境の構築」について

基本政策5「地域を支える文化・芸術、スポーツの振興」について

その他

### 会議の経過及び結果

(開会)

総務課長  
(進行)

定刻より少し早いようですけれども、お揃いですので始めさせていただきます。それでは、平成30年度第1回西海市総合教育会議を始めさせていただきます。

開会に当たりまして、杉澤市長よりご挨拶を申し上げます。

市長

皆様、こんにちは。開会にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

まず、台風7号及び西日本集中豪雨により亡くなられた方々に対し、心からご冥福をお祈りいたしますとともに、今もなお行方不明となっている方の一刻も早い発見と、被災された皆さんの一日も早い生活基盤の確立並びに被災地の早期復旧を願っております。

また、去る6月18日に発生した大阪府北部を震源とする地震においては、小学校内に設置されていた違法な工作物により児童の尊い命が失われております。

このため、本市も市内の公共施設の緊急点検を行ったところであり、改修が必要な施設等については、早速9月定例会の中で補正予算に計上して速やかに安全対策を講じることにしておりますので、御理解賜りますようお願い申し上げます。

さて、本日はお忙しい中に平成30年度第1回西海市総合教育会議に御出席賜りまして、誠にありがとうございます。

本日の協議事項は、平成28年度に策定いたしました「第2次西海市教育大綱」の確認等を行うこととなっております。

前回の会議では、「コミュニティの再構築」と「子育てしやすい西海市」というキーワードで協議を頂きました。

本日も、皆様と一緒に教育行政について協議してまいりたいと思いま

す。限られた時間ではございますが、西海市の教育行政について語りたくて思っていますので、よろしく願いいたします。

総務課長            ありがとうございます。続きまして、今年第1回目の総合教育会議になりますので、委員の皆様、教育長様以下職員も含めてですね、自己紹介をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。委員さんからお願いいたします。

各委員ほか           (各委員順次自己紹介)

総務課長            皆様ありがとうございました。  
本日の会議でございますけれども、一応目途といたしまして、2時30分を目途して終了したいと思いますので、ご協力の程よろしく願いいたします。それでは、早速議事に移りたいと思います。

ここから先の議事進行につきましては、市長が進行しますのでよろしく願いいたします。

市長                ここからは私の方で進行させていただきます。

本日は、教育委員会より西海市教育大綱の基本政策4「安心して学べる教育環境の構築」について及び基本政策5「地域を支える文化・芸術、スポーツの振興」についての議題をいただいております。

まず、基本政策4「安心して学べる教育環境の構築」について、教育総務課及び学校教育課の方から御説明をお願いいたします。

教育総務課長       (1項目目の内容説明)

学校教育課長       (1項目目の内容説明)

市長                ただ今、教育総務課から学校の改修について、学校教育課から地震対策、火災対策、不審者対策等について説明がありましたが、御意見、御質問等があればお願いいたします。

北島委員            危機管理マニュアルについていくつか質問させてください。目次を見ますと網羅的に書いてあるのかなと思いますが、例えば、予告的な襲撃とか爆破とか、学校に対する攻撃をなすような対応というのは、この危機管理マニュアルの中ではどこを指すのかなというのが1つと、全国各地で発生している大規模災害の被災地というのはそれぞれで対応されておりまして、教育の現場というのは授業の再開、子どもたちの安全に腐心されておられまして、危機管理マニュアルと同時に事業継続計画といいますか、いわゆるBCPというのが行政でも準備されているんじゃないかなと思うんですが、学校におけ

るBCPというのは存在するというか策定されているのでしょうか。2点についてお聞きしたい。

学校教育課長　　まず、1点目の爆破予告について昨年度あったのですけれど、目次の中に爆破予告というものは無いのですけれども、例えば12番に自殺予告等の対応というのがございます。外部から入ってきた事案、例えば、予告に対して対応としましては、ここに具体的には示しておりませんが、類似するところで対応するというので、その際には必ず校長を中心に関係者で会議を開きながら対応する。又は教育委員会からも必要に応じて指示を出すという対応をしているところでございます。

教育次長　　事業継続計画については、昨年市役所については、本庁で策定済みで、教育委員会としての事業継続計画も盛り込まれていますが、学校については今からということで考えております。

北島委員　　被災したときに、いわゆる核機能が失われるという状態。今回の西日本豪雨災害についても、福祉施設の被災状況というものを全国から入手したわけですけれども、まずそういった、例えば介護施設ですと、介護サービスを提供する機能がどんどん失われて、食事であったりとか。当然、水がこなかったら排泄とかトイレもできませんので。実際、機能が失われたときに対応するのか、代替なのか移動なのか或いは他からの援助なのか、そういったことをしっかりと計画の中に入れないといけないと。西海市としても行政計画を作られたと思うのですが、今後、学校においても教育の再開、子どもたちの安全確保をしたりとか、情報を含めて確認をすることも今後必要なのかなと思ったところです。

市長　　実は今回の台風7号、それから集中豪雨にですね、西海市も危機対策として、防災会議をはじめとしたマニュアルはあるわけですけれども、今回私も就任して初めてのことでした。終わって人的被害が無かったので言えますが、いい勉強をさせていただいたと思っています。今回初めて、災害対応として一次配備の体制を敷いたところです。想定外だったのは、電力ダウンですね。今回のように長引くとは思っていなかった。電力の長時間にわたるダウンがどういう影響があるのか初めて知った訳でして、まさか、断水とか下水道に影響があるとは想定外でしたので、非常に厳しい体験をしたわけです。今後そういうところをもう一回練り直して、色々な連絡体制というのがちゃんとできるかを検証していく。

今回は夜だったから子どもたちも自宅にいたわけですけれども、昼間だったら学校での対応となります。学校で対応するけれども、場所がどこに集合

するとか、そういうことも考えなくてはいけませんので、色々なことを勉強させられた、台風、大雨だったわけですが、市としまして、いい経験として活かしていかなければならないと思っています。市長部局ももう一回練り直すわけですけれども、教育委員会と学校との対応といいますか、連絡方法といいますか、どういう形で意思疎通させるか。情報をどこにどう集約するのかですね。それらを考えていかなければならないと反省したところです。

市長 他に何かありませんか。

寺本委員 両方に兼ねていることですが、安心して学べるという方の1ページの施策の中にですね、学校の温暖化対策として、扇風機の設置を進めると。暑かとは当たり前、寒かとは当たり前でしたけど、こうやって温暖化が進むと本当に必要なのかなと思います。更に進むと扇風機だけでは間に合わない時代が来ると。もちろん予算的なものやそれに関わるランニングコストの問題もあるので、全教室冷房というわけには行きませんが、やはり気温が高いときには子どもたちが過ごせる環境を最低でも確保するということ。

今の被災地を見ると熱中症で亡くなっていく方がおられて、避難所の中の空調が言われています。全部の体育館に空調をと申しますが、避難所として確保できる最低限の空調が必要かなと、危機管理と両方併せて思うところです。直ぐ直ぐは、経済的問題がありますので、ゴリ押ししませんが、是非、どこか片隅においてもらって進めてもらいたいと思います。

市長 私も必要性は感じています。昔と違って、我慢せろという暑さではないと思います。最近のニュースでも危険を伴う暑さという表現をされていますので、学校では子どもたちも暑かろうと思います。家に帰ればクーラーがあるので、学校で勉強するときだけ扇風機で我慢せろというのはどうかと思いますが、予算を伴いますので、政策課題として私も前向きに考えて行きたいと思っています。

北島委員 災害の方に戻りますが、市長が言われましたように、今回西海市は大規模な長時間停電を経験いたしまして、福祉施設の中でも食事を提供しないといけないとか、そういった対応をしたわけですが、翌日まで続くとなると煮炊きができないということで、備蓄食の提供とかそういったことまで明るいうちに準備をしたところです。そういった中で、例えば、日中子どもたちが学校にいるときに災害が起こってそこに閉じ込められてしまうとか、数日間学校で過ごさないといけないとか、そういったようなことの想定をしていかないといけない。例えば学校の備蓄、あるいは地域地域の自治公民館とか公民館関係の保存食、水の確保といったところほどの程度まで行政として進めて

おられるのかなと。

総務部長

現在は、防災基地対策課と福祉課で対応しております。備蓄食は福祉課で対応しています。レトルトのおかゆであったりとかは備えております。正確な数字等は今持ち合わせておりませんが、毎年福祉課で備蓄食を購入しています。今回の災害の件もあり、今年度については既に発注しております。大きな災害が想定される場合は、応急的な食事であるとか、水であるとかが必要になってきますので、そのへんについては漏れが無いような形で、今後も十分な量を確保していく予算というもとをとって配置していきたいと思っております。現在のところは、自治公民館への備蓄はありません。総合支所とか庁舎内にしか保管していませんので、今後は指定避難所になるところ安全なところ、例えば体育館であるとかにマットであるとかを学校側、教育委員会とも連携をとって臨機応変に対応できる体制をとらなければいけないと今回の災害で思い知らされたところです。そういったところで、装備等の充実を図ってまいりたいと思っております。

教育次長

子どもたちの給食の備蓄の面では、数年前、大島・崎戸の学校給食用の備蓄として3食分の備蓄用カレーを購入したことがあります。大島大橋通行止めで使ったことがある。学校給食用は子どもたちが中心になりますので、それぞれの調理場で備えておいたほうがいだろうと、先日の学校給食調理場運営委員会でも話が出たところです。備蓄をするにしてもどこに保管しておくのか、今後の検討すべきところです。学校給食の備蓄も進める必要があると考えております。

北島委員

あくまで、アクセスができる場合、拠点に置いておけばいいわけですが、実際そこで身動きがとれない状況も想定できると思いますので、是非、人が集まるような場所で、特に学校については備蓄の保管場所の検討をお願いしたい。先ほど、3年位前と仰られたわけですが、備蓄食の保存期間もありますので例えば年に1回防災の日として、西海市として設定してもらって、防災の日には、避難訓練とか、学校では質素なレトルトカレーを食べるとか古いものは消費をしていただいて、次の分をあらためて備蓄するとか、そういった工夫も活動と併せてされたらどうかなと思ったところです。

市長

実は防災訓練については検討しているところです。今年から自衛隊経験者の防災マネージャーを配置しておりますので、西海市独自の全市的な防災訓練の実施について指示をしていることです。準備に時間を要するというところで、来年できるかできないか、できても再来年ということ。防災意識を高めるためにも必要と考えております。

西海市の備蓄はおかゆだけですが、賞味期限がありますので有効活用をしたいと思います。貴重なご意見だと思しますので、進めていきたいと思します。

北島委員

西海市が作られハザードマップがありますけれども、うちでもあれを活用させていただいているんですけども、今回の西日本豪雨災害では、殆どハザードマップどおりの被災があったということで、西海市の皆さん、どうなんでしょうか、ハザードマップを見たことがあるのか。自分が住んでいるところ、或いはよく通っている所、公民館だったり学校だったり。そういう場所が被災したときにはどういう行動をとらないといけないのか。例えば大規模な防災訓練だけではなくて、そういった意識付けも地域ごとにハザードマップを理解していただくような周知活動があればありがたいと思っています。いい防災マップというか、ハザードマップができていますのでご活用いただければと思します。

総務部長

ハザードマップにつきましては、新しく土砂災害区域の設定が県からなされていますので、それを基に再度作り直してお配りする予定です。現在お配りしているものについては、避難経路が図示されていません。よくできているハザードマップについては、避難経路も図示されているようです。そのへんにつきましても、順次整備して参りたいと思っております。できるだけ早期に、住民の皆さんには災害の時にはこういった経路で避難するんですよ、こういった行動をとってくださいというように、お互い認識を深める形で広報等を通じてできれば、災害時に自分のおかれた立場について状況を知っておくことが一番重要だと思します。今回の西日本豪雨を他人事とは思わないで、自分の周りの施設とか、避難経路とかを家族内で話し合っただけければ、有事の対応になるのではと思っております。

村山委員

ハザードマップの把握はすごく大事だと思しますが、子どもたちが学校にいたとき学校に何かあった場合、学校が危なかった場合の次なる避難場所、次なる対応、避難マニュアルについても保護者に教えてもらいたい。

保護者に向けた避難ルートといいますか、保護者にも分かるようにしてもらえれば安心するのかなと思します。

総務部長

東日本震災の大川小学校で問題になっている件もありますので、教育委員会と連携して、児童、生徒及び教職員も含めて危険が及ばないように対応してまいりたいと思っております。

川南委員

保護者へも周知をとということがありましたが、各学校がそれをなされてい

ると思います。私が勤務しているときも、このくらいだったら運動場、このくらいだったら第2避難場所というふうにして、こういうときには、お母さん方にごにお迎えに来てくださいと各学校で基本的にされていると思うので。台風とか、豪雨とか地震とか立て続けにあっており、これが危機管理として大事になっていると。今回のお話の中心になっていますが、学校それぞれで危機管理マニュアルも作っていて、保護者に周知もなされていると思うんですけど、こういう機会を通して、新たに保護者になられた方へ基本的なことをお伝えするというのを教育委員会にもお願いしたいと。

学校教育課長

学校が避難所として機能しなくなったときということについては、市全体のマニュアルとかで周知をすることになると思います。例えば、学校で震災があった場合には、先生の指示に従うということがマニュアルに定められておりまして、安全な場所へ一時避難をしたあと、引渡しの仕方とか待機の仕方ということで、だれがどういうふう判断するのか、行動するのかを全ての学校で明記されております。

ただし、もしその後学校が崩れてとなった場合、学校が避難所としてなりえないときは、学校の危機管理マニュアルには未だ明記されておられません。今後市としても全体的なことを考えていくべきなのかなと思ひながら拝聴したところです。

北島委員

もう一つのテーマで不審者対策というのがありますが、アメリカの方ではしょっちゅう学校での乱射事件を聞きますし、先日は北陸の方では、それに近いヒヤットする事件がありました。様々な公的な施設に乱入しての事故、事件が聞かれる中で、学校というものを以前からそういったケースを経験してきた場所でもあります。不審者といいますか、加害者側からすると何らかの動機や理由があつてそういうことをするんでしょうが、一般的にも、社会常識的にも理解できる行動ではないわけです。理解できない行動をとられる人をどう見つけ、発見し、防ぐかというのは難しいと思います。

そういった中で、地域と学校の間係を深めていくといいますか、地域との関係性があつて出入りとか、学校関係者だけではなく、地域の方も出入りされているとか、地域の方の目というもの非常に大事ではなからうかと思ひます。教育行政の中でもコミュニティスクールとして、地域の中で学校を考えると地域づくりの中で学校の存在を考える取組みがなされておりますし、西海市でも1校設定をしていくようですが、コミュニティスクールの設置は地域の皆さんの理解、協力が必要になってくると思ひますし、地域力と言ひますかコミュニティ力と言ひますか、それを上げていく事もできると思ひますし、教育現場と市長部局での地域づくりの連携を積極的にできればと思ひます。



市長 最初申し上げましたように、今回の反省点と言いますか、気づいたことは情報の伝達方法なんですね。

この情報は自主防災組織が立ち上がっていますが、ここまでの情報を提供すれば、あとは地域の中で一人暮らしの方へも回るような連絡網を作っていく必要があると感じたところです。それと同様に学校もですね、もう一度防災対策の中で情報の伝達について大切だと思しますので、しっかりと構築していきたいと思っております。

市長 次の協議事項に移らせていただきます。

「基本政策5」といたしまして、「地域を支える文化・芸術、スポーツの振興」について、社会教育課からご説明をお願いしたいと思います。

社会教育課長 (2項目目の内容説明)

市長 基本政策5 「地域を支える文化・芸術、スポーツの振興」について、説明がありましたが、これについてご意見等があればよろしくお願いします。

北島委員 文化とスポーツ振興ということですが、どちらかと言えば文化に足を置いた話をさせていただきますが、以前長崎ご出身で大阪市の教育委員会関係にお勤めになっていた方にお聞きしたのですが、行政の文化予算は長崎県なんですけれども、全国で長崎県が最低レベルらしいという話を聞いた。自分の故郷なので文化度を高めると言うのは個人の力では難しく、行政予算をしっかり確保していくということが非常に大事なんだということを力説されておられた。昨今では長崎県でもミュージックフェアといいますか、県内各地で県費を入れて地域毎の音楽の祭典を展開して来られましたけれども、それが根付いて活動にも繋がっておられるみたいですし、例えば波佐見町であったりミュージアムギャラリーというものを展開されている所も、それなりの人を呼び込む力にも繋がっているようです。

翻って、私ども西海市を考えたときに、今ご説明いただいた文化芸術の御説明とスポーツの御説明だけでもこれだけの落差があって予算的にも、文化は500万円位でスポーツは3億4千万円位予算があってという御説明をされたわけなんですけれども、一概に金額だけの話ではないかもしれません。逆に今後、西海市独自の文化を創っていく、或いは子どもたちに本物の文化や芸術に触れさせて真否眼と言いますか、人間としての教養と言いますか、それらを高めていく。日本のみならず世界に通じる子どもたちを育てていくという意味でも、非常に長期的な投資になると思うんですが、長い目でこう

いった文化・芸術活動に対する投資というのは必要なのかなと非常に思っております。今日は市長もおられますので、今後とも是非よろしく願いしたいなと思っております。

市長

文化に対する予算が措置されていないというのは以前から思っていたところであり、社会教育だけではなく教育予算というのが、一般会計の総額に対して若干低いのかなという感じは思っております。今言われた意見はしっかり受け止めております。文化等にお金だけ投入すればいいというものではなくて、少しずつ上げていって、最終的には市民の皆さんの文化に対する意識を少しずつ引き上げていくのが順序だろうと思います。そういう中で、一朝一夕ではできることではありませんと話がありましたように、私もそう思っております。文化の意識を少しずつ上げていく施策をやっていければと思っております。社会教育課としてはどうですか。

社会教育課長

文化芸術では、文化ホールの大規模改修工事をさせていただきました。今回、文化ホールに文化協会の事務局を移転いたしましたということもありまして、文化協会として、ギャラリーを使って常設的に会員の作品展示を開催したいという要望をお受けしています。ギャラリーは建設当初の形態です。空調設備は改修をしておりますが、今後展示を強化していくということであれば、ギャラリーの改修若しくは展示できる備品であったりとか、そういうものの充実が必要ではないかと考えています。

会員さん方の増加策について、各地区の文化講座を開設し3年程度経過すれば独り立ちしてもらおうようお願いするなど、そういった事業も展開しております。地区の方で活発に活動していただいて、何らかの形で文化協会の会員増に繋がるような、社会教育課としても支援していければと考えています。

そういった中で、現在、地区職員の配置として、職員1名、社会教育指導員として1名配置しておりますが、そちらについて何らかのご支援がいただければ、より一層の支援につながるものと考えています。

北島委員

ハード面の話もありましたが、心揺さぶるような感動に触れさせるということが大事だと思います。スポーツであれば、トップアスリート招聘事業をされているじゃないですか。市長のご出身である崎戸町では、以前スケッチ大会があっていましたですね。そういうところでも一流の画家に来ていただいて子どもたちに指導していただくとか、一流の音楽家を招いての音楽会を催すとか、一旦機会を得るとそこからまた伸びていくとか、子どもに限らず人はみなそうだと思いますが、是非そういう機会をたくさん作ることが大事かなと思います。

年に1回ある企業がクラシックコンサートを開催しており、佐世保のアルカスを使うんですが、佐世保のクラシック人口は700人いると言われていたんですが、その日だけは2,000人、満杯になるんですよ。タダだったらみんな行くし、ものすごい感動して来年を楽しみにしてますということで帰っていかれる。それが毎年されることで、地域貢献され、700人のクラシック人口が少しずつ増えていっているのかもしれない。人間というのは、何かに触れると本物に触れると心が揺らぐというのか動くというのか、感動を呼び、それがまた様々な暮らしの潤滑というか潤いになっていくのかなあと思ってますので、心にたくさん栄養を与えられるような。ハードは当然ですよ。それが一番最高に見える、聞こえる、感じられる舞台を作っていくのは当然で、そこで何を見せるのか、市民の皆さんの支援活動だけではなくて、市民の皆さんの目線を高くしていくというか、文化芸術を振興していくという面では考えていただきたいなと思います。

教育長

文化の話になっていきますけれど、やっぱり私たちに届く市民の声も、スポーツばかりやっとなすけん、文化にももう少しお願いしますよという声も届いております。社会教育課長も申しましたが、今の私達のスタッフでは外部に頼るしかないわけで、そうなるとこの文化協会と連携してやるしかない。

あとは、大きな話になりますが、西海市に文化庁のようなものを作ってもらおうとか、本格的にはですね。今、文化協会が非常に頑張ってもらっています。去年もふれあいジョイントコンサート、3月3日も大盛況でしたし、今年もさいかいミュージックフェスとして新しい試みですし、そういうのを通じながら、刺激を与える部分も頑張りたいし、地元の文化、歴史ある文化を守る方策も考えていかないといけないと思います。文化は大切だと思っておりますので、そこを考えていきたいと思っております。

市長

文化活動というのは、皆で気持ちを高めあっていくというのが最終的な目標だと思います。気運が高まってくれば、文化活動に関わっている方のボランティアとか自然に出てくると思うんですね。崎戸のスケッチの町のことが出ましたが、当時も婦人会の方々が自主的に民家を改造してアトリエをやったわけですが、展示品の交換とか、移動展示会とかボランティア活動でずっとやっていたこともありました。文化を受ける方も、一つずつ気持ちを上げていくというところにも、文化の必要性があるかと思っております。少しずつ内容を濃くしていったって、文化度を上げていくという取り組みをやっていければと思っております。

寺本委員

文化の面で、例えば京都大学のクラシックの人達が毎年来てくれていま

す。お金はかからないけれども、非常にクオリティの高いもので、よく引っ張って来てくれたなと思います。指揮者体験となると子どもたちも恥ずかしがりますが、速く振れば演奏も速くなりますよ、ゆっくり振ればゆっくりになりますよというような楽しい催しもしていただいています。もちろんお金をかけて一流の方に来ていただくという面と、それから発掘をしていただくとお金がかからなくても、随分親しむことができるものがあるなど見ております。

スポーツの方では、大崎高校の野球部のために初期費用がかかると思います。大切なのは、他所から来てくれる子どもたちですが、地域の人達にもよく挨拶をしてくれて、好感度が上がって、若い人達が一緒に生活しているんだなということで地域の人達の喜んでいるという声をたくさん聞きます。同時に彼らは親元を離れて西海市の地で野球の為に頑張るといふ思いがあるので大切にしてもらいたいなあと。彼らの人生、そこにかけてまでわざわざ西海市に来てまで野球をしたいと、市としても、市民としても出来るだけサポートしていきたいなと思います。行き帰りを見ていると自転車で転んで怪我したこともあるようですが、夜遅くまできつい練習をして帰ってくるのは、酷な部分もあるかなと思うのですが、そういう声を聞かせてもらったらと思います。

この間、名古屋で崎戸出身の人と出会ったとき、今こんな事業をしているよと説明したら、それやったら応援するよと言われてたり、ふるさと納税とかあるのと、そういう形でも支援したいということなんでアピールの方も是非是非しながら、進めていただきたいと思います。

市長 自転車で帰っているのを見てですね、早う何とかしてやりたいと思っているわけです。食堂ができれば、それも解消すると思う。交通事故に遭わないようにしてほしいし、早く食堂を完成してもらって、安全で快適な高校生活を、ひいては甲子園を目指して頑張るようなチームになってもらえればと思っています。

市長 他にございませぬか。

川南委員 文化面でも思うところはあるのですが、文化面でも、スポーツ面でも現状報告でしたので、この先どのように西海市の文化を育てていくのか、スポーツをどのように発展させるのか、もう少し話し合いができればと、そういう状況になればいいなど。地域を支える文化と言うことでお尋ねしたい。市政10周年のときに色々な地域の文化を披露し、横瀬浦のとかあったんですけど、5町のものを合わせるとこんなに色々な昔から伝わる芸能とかがあったんだなと感心しました。それを残す方法としてDVD化したりということは考

えたことはないでしょうか。それをしていただきたいなと思います。

市長

議員の時に同種の質問をして、地域の伝統芸能があちこちにあり、本当にすばらしいものがあります。先週の日曜日は西海町川内の遷宮祭、次は西彼町の竜神祭、八朔祭もあります。これらはしっかり残していかないといけない。今のところこの3つは地元がしっかりして、伝承していているんですが、場所によっては非常に厳しくなっている所もあります。そういう所に市の教育委員会としてどのように入っていけるか、喫緊の課題と思っています。人的な補助員とかも要りますので、それも含めてですね、郷土芸能の存続について西海市の歴史・文化を伝承していくという面では、大切なことであると思っていますので、今後は教育委員会からの意見を出していただいて、真剣に考えていかないといけないと思っています。

北島委員

文化とは少し離れるかもしれませんが、地域のしくみというか、一つ意見だけ申し上げたい。先ほどの災害の話での自主防災組織とか、福祉推進員とかこういったものは、各自治会単位、行政区単位で選任をされたり設定をしていくというケースがある中で、全市が集まると必ず問題になるのが旧町毎に仕組みが違うからという話があるというのは市長もご存知のとおりであって、いつかどこかでこの辺の仕組みをきちんと整理、整合していくのが大事なのかなと思います。

社会教育の場面で言うと、公民館活動もその一つになってくるかと思いますが、今までの歴史と経過がある中で難しい問題ではあろうとは思いますが、教育委員会だけではどうしようもないかと思っていますので、今後の方向性、ビジョンというものをお示しいただければと思います。

市長

地域のあり方ということで合併して14年目に入ったところですが、これまで統一化を図ってきたわけですが、文化はそういうものではないかと思っています。地域のありようというものも実はそうじゃないんじゃないかなと思っています。地域、自治会、行政区のあり方というものを抜本的に変えていかなくてはいけないと思う。これから持続可能な地域のあり方を模索していく必要があると思います。今、地域のお世話というか、そういう中で動いているわけですが、もう少し住民自治という考え方を入れて、地域を考えていくべきではないかと思っています。住民自治、みんなで地域を作っていこうよと、そういう仕組みを構築する必要があると思っています。

市長

他にありませんか。

今日の議題としては終わったわけですが、その他として何かありませんか。

北島委員 今後のことですけれども、基本計画について一通り重点政策については各分野毎に終わったわけなんです、市長としてもお忙しい中に時間をとっていただいております、教育委員会として市長とお話する機会もこれだけですので大事な会議と思っております、今後こういった方向性で、年内考えておられるのか最後にお聞かせください。

総務課長 今のご質問の件につきましては、レジメの3にあります、その他の項で提案させていただくようにしていただいていたところですが、今お話がありましたように、平成29年7月の第1回会議から、第2回の10月、そして今年度今回の会議で基本政策1から5まで協議をしていただいておりますので、一応の一区切りというところでございますので、皆様方からの御意見をいただいた上で、もし御意見が無いようでしたらこれまでの会議の中で検討事項として上がりました諸課題について事務局で取りまとめて、皆様に御提示をし、準備をしていきたいという御提案をさせていただくところでした。

市長 それでは本日の会議はこれで閉めさせていただきますよろしいでしょうか。限られた時間ではありましたが貴重なご意見をいただきました。

取りまとめ後に、また各課題について掘り下げていこうというところで意見が一致したと思います。

次回の会議の折に、皆様の御意見をいただきたいと思っております。

本日はありがとうございました。

総務課長 レジメの3についてですが、もう一つ次回の開催日程についてですが、10月の定例教育委員会の開催に合わせて10月25日(木)午後1時からということで調整をさせていただきたいのですがよろしいでしょうか。

教育総務課長 10月25日(木)は、村山委員が都合がつかないということですので、11月26日(月)の教育委員会定例会の午後からはいかがでしょうか。

村山委員 11月26日(月)も予定があり都合がつきません。

総務課長 それでは、次回日程につきまして、あらためて調整をさせていただいてご報告させていただきます。よろしく申し上げます。ありがとうございました。

(閉会)